



地方行政と学問：ある大衆闘争の教訓

稲見，悦治

(Citation)

兵庫地理, 9:82-90

(Issue Date)

1965-03-31

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90002239>



地方行政と学問

— ある大衆闘争の教訓 —

稲 見 悦 治

1. 年 賀 状

昨春懸案の都市災害論の完成を喜んだかと思ったら、今度はその実践を地元の御夫人達から懇請され心ならずも12年選手の市長さんと激しい論争せねばなくなりました。現職有利とみてかどたん場で寝返った同志や地方新聞から選挙違反、名誉毀損罪などで訴えられるぞと脅迫されたり、某市会議員が私を告訴すると警察に走られた時は最後の覚悟を決めました。幸い死守すると涙で激励された御夫人達やサンデー海日（9月13日号）の応援や私達の悲願を公約された新市長さんの登場などで中傷、罵倒、脅迫の窮地から漸く開放され、明るい正月を迎えるに至りました。研究室での理論実践のむづかしさが身にしました。本年度も宜敷く御指導の程をお願い申し上げます。

1965年1月元旦

1965年元旦を迎えるに当り上記の文面の年賀状をタイプ印刷した。そして昨年3月地元の御夫人達の懇請で立ち上り、「し尿処理場問題」で12年選手の市長ならびにその側近とはげしい論争を繰り返して以来、この運動の経過ならびに私の身上を御心配して下さっている多くの知人に近況報告をかねて発送した。

私は当市は全国的に有名な国際文化都市であるから当然市長さんその他の方も何れもその道のベテランであろう。こんな立派な方ばかりであつたら私たちの氣持を誠心をもって話したら理解して下さって計画を変更して下さることも可能と考えた。私たちが要望していることが地元本位の利己主義に始つたものならば知らぬ事当市百年の大計から見て道理にかなっており市当局の計画にこそ問題があるとわかつて下されば、当市百年の大計からみて万難を排してでも、現計画を再検討して下さるものと思った。またそう考えたから8千字に近い陳情書を再度作成し精魂こめて、計画変更をお願いするに至つた理由を詳細に書き綴り、計画変更を陳情した。ところがどんなにお願いしても、理論で反駁することなく、施設は厚生省が認可したほどの最善の施設であるとか、起債や補助金の問題で計画変更は不可能であるとかポイントが外れた返答ばかりであつた。そればかりかそのよ

うな回答で私達が引き下らないと知ると私たちに謀略と思われる手がつぎつぎのびてきた。

私は理論で敗ればともかく、謀略では引き下ることは立場上不可能なことであり、反駁を繰り返さざるを得なかった。そうすると、それに倍する中傷、罵倒を受けるという具合で、これまで体験したこともなかった、生命を縮める思いをさせられた。市当局のこうした圧迫があったがその一方ではその反対に幸い多くの方が私たちを心からバックアップして下さったのと、予期せぬ事態の発生もあって事態が好転し、初志を貫徹することができた。

私たちが研究の結果えられた理論を実践しようとする場合、それが為政者の意向に反した場合どんな圧迫があったかを略記し、今後の自戒の書とすると共に、皆さんの御参考にしたいと思いペンを執った次第である。

2. 神大田中教授と私の間で話合いがついていると

昨年3月、私は浜の御夫人たちから、芦屋のU市長さんが、9月の市長選挙を有利に展開しようとの心づもりからか、全市水洗便所化も近いとかの事実にそぐわぬPR文句で、すでに住宅が建て込んでいるばかりか、早くからPRされてきた海浜の埋立でも進めば市街地の真中にもなろうというところにし尿処理場の建設を急いで居られるとききびっくりした。もしそのような事態が起ると風致、公害のみならず、山津波、海津波の際にゆゆしき問題が発生するであろう。正式には下水道終末処理場ではあるが実質上はし尿処理場にかわりのない問題の施設を建設されるとしても現在予定されている土地はまわりにすでに住宅が建て込んでしまっているので不適当な土地と云わねばならぬ。出来れば現計画を変更し、本年着工と早くからPRされてきた海浜の埋立を早急に実行に移し、そこへ処理場を建設すべきである。これから着工される埋立地であつたら、十分な敷地の確保も可能であろうし、十分な敷地さへ確保できるならば、国際文化住宅都市の施設としてふさわしいものを建設することが出来るであろう。またそうされるのが国際文化住宅都市づくりをすべく運命づけられている当市に取って当然であろうと強硬に陳情した。その時市当局は埋立資金のメドはつきかねているとか、埋立地にそんな施設を建設するのは危険であるとか、さらに起債や補助金の問題からみても計画の変更はむづかしいとか言って私たちの要望に耳を傾けようとされなかった。

市当局は私たちがどんなに陳情しても言を左右して耳を借そうとされなかったが、たまたまその頃発表された県の「大阪湾西部開発学術調査報告書」の中に記

載された芦屋市の処理場構想が私たちが早くから要望していたものと寸分ちがわぬことが明らかになった。私たちはそのために勇気百倍して強硬に市当局に反省を促したが、その結果物情騒然となった。そうなってくると私たちの処理場検討運動が、来る9月の市長選挙におけるU市長候補予定者の支持票にマイナスになると考えられてか、市当局は私たちに次のような魔手を延ばしてきた。すなわちU建設部長はU市長の意を体してか環境衛生協会委員会の席上における某委員の質問に答へ「皆さん方に御心配をかけている当市のし尿処理場問題はもう御心配されるにおよびません。その件については神戸大学の田中教授と同僚の協議会代表との間にすでに話し合いがついたから」と言われたとのこと。

私はある方から田中教授の名を聞いた時突如として浮んできたのは私が早くから昵懇にさせていただいて来た田中薫教授のことであり、県の宅地造成審議会で時折り顔を合わす工学部の田中茂教授のこととは思わなかった。田中茂教授とは県の宅地造成の件で一、二度話合っただけで、処理場のことで一度も話し合いを持ったこともなかった。後日田中茂教授にその件について問い糺したら「一度そのような依頼を受けたが出る幕でないと思ったので直ちに断った」と。市の理事者ともあろう方が環境衛生委員40～50名集められた公の席上でよくこんな事実にもぐわぬ発言をされたものだと思われた。

以上のような事も、かんぐるまでもなく私を陥入れる謀略の一つでなかっただろうか。私と田中茂教授との間ですでに話し合いがつけば、その後で私が処理場再検討要望で市当局を追求して行った場合、真相について知らされていない市民は私の言動不一致を非難し、U市長側に組することは必至であり、それを狙っての芝居とも受け取るしかなかった。

3. いやがらせの無記名のハガキ

芦屋市には戦後全国的に隆盛になってきたパチンコ店がないし、風俗を乱すいかがわしいバーその他の施設がないしそれが市民の自慢の一つになってきた。また人口6万の都市であるにもかかわらず、映画館もただ一つという珍しい都市。それもその筈、最近流行的な施設で各都市に輩出する傾向をみせてきたヘルスセンターやボーリング場でも出来そうだというニュースが入ると目の色を変えて反対運動に立ち上る人々が多かった。勿論反対の理由は国際文化住宅都市の生活環境を悪化してもらっては困るというわけ。こうした施設に反対する運動ならまたたく間に広がり賛成署名簿が山と積まれ、業者はホーホーの態で計画を取りやめるに至った場合がしばしばであった。

前述の通り芦屋市ではボーリング場、ヘルスセンターなどの場合は立ち所に反対者が集まってくるが、そんならより重大な市政そのものに関心を持っている市民が多いかという点必ずしもそうではない。そうしたことは衆議員、参議員、市長その他の選挙毎に現われる投票率でもよくわかる。こうした選挙での投票率が低いことも定評である。市行政を左右する重要問題で誰かが中心になって市民大会を開催しても、お土産物かアトラクション付でもなかったら集まる人はせいぜい多くて100人前後というのが定評である。昨年7月に前市長さんが4選を狙って市長候補に立候補を表明された時でも、後援者は市民の集まりを心配されたのか、白木みのるその他の喜劇役者を呼んで万一の事態に備えねばならなかった程である。

芦屋市は前述のように市行政に直接関心をもつ市民が少く、自分の足下に火がつくような事態さえ発生しなければ我関せずという人達が多い都市のようである。こんな都市でもあり、主催者が私たちのような市民になじみのうすい者たちが処理場問題を有利に展開する一手段として「山からと海からの災害から芦屋市民を守る」などのスローガンで市民大会を開催してみても、どれだけの市民の方々が集まってきてくれるか私たちも蓋を明けるまで心配でならなかったし、市当局者もたかを括っていたと思われる。また市当局者はそうは考えたものの、その大会に六麓荘町のブルジョア連が観光バスを連ねて大挙参加するらしいと聞くと各戸毎に「会場は赤旗で埋まるから近よっては危険である。今回の市民大会は共産党の手先のもの達の策動であるから用心されるのがよい」との電話けん制の手も周到に打ってあったことでもあり、市当局も何ほどのことあらんと楽観し事態の推移を見守っていたらしい。

ところがいざ幕を明けてみると、私たちの作戦が良かったのか、取りあげた問題が市民一人一人の心を打った災害という切実な問題であったためか、定刻前には会場の精道小学校講堂の内外を埋める数百人という記録破りの市民を集め、処理場問題のPRに成功し、市当局をびっくりさせる事態となってしまった。事の重大性を知らされた市当局は、その対策に狂奔され、早急に市民大会での中心人物の一人である私を舞台から引きずり下し、U市長の市政批判の急先峰となっている浜の協議会に圧力を加えようとされてか次のような無記名のハガキが舞い込んできた。

まったくの驚きであります。純正な科学者であってほしいと願っておりますが、先生までが共産党の手先になって政治活動におどっていることは心外でな

りません。しかも何かの目的のために、売名的に。こんな運動はおやめになった方が学園のためにも良識を持ってほしいと願うものであります。

4月25日

達筆で書かれたこのハガキの意図するところは解説するまでもなく私たちの運動をアカあるいは共産党の運動と中傷し、圧殺しようとしてきたものであったわけである。私は職掌柄思想的には全く自由な立場にあり、赤や共産党の手先に踊っているものと中傷攻撃されても一向痛痒を感じなかった。しかし金持連中の多い芦屋市では共産党の一味ということが私たちを傷つける最上の戦術でもあったわけであり、売名的といえば私が引き下るものと考えての攻撃であったかも知れぬが、私はこんな投書や悪質電話などで引き下れなかった。

4. 職場を放棄し、反市長的政治運動に没頭している不良教師とか

私は芦屋市のし尿処理問題で浜の御夫人たちから決起を促がされた当初その任に非ずと躊躇したら早速市当局からすでに買収されているのではないかとのデマをとばされた。従って決起後市当局からの圧迫で引き下るとなると再び同じようなことを言われることが必至と思われた。私は職掌柄中傷その他で引き下ることの出来ぬ立場のものであったし、拙著「都市災害論」の中で都市災害の大半は人災であり、都市災害を防止するには、その原因となりやすい施設の建設に最大の注意をせねばならぬと主張してきた手前、後日当市がそれがために大きい災害に見舞れるかも知れぬ施設を問題の場所にむりやりに建設しようとするのを知って座視するわけにはいかなかった。そこで事あるたびに決意を新たにし、御夫人と心を合せ初志の貫徹に精魂をこめていると、私を牽制し引いては協議会に圧力をかけようとする新しい魔手が延びてきていた。

私はいつの間にか市当局からし尿処理場問題にかこつけて、大学の職場を放棄し、国家公務員服務規定を無視し、反市長的な政治運動に走り廻っている。言語道断ともいうべきひどい不良教師であり、神大当局を通じて注意を促してもらわねばならんなどと言っている人達があるとの噂を耳にするに至った。私はこの運動に立上った当初から、これに類した中傷を必ず受けるかも知れんと思っていたから、夜の作戦会議でおそくなり、翌日どんなに疲労していても大学の講義だけは必ず行った。また噂の通り大学の方に芦屋市当局から手が延び運動展開するに当たって支障が起き、御夫人たちの期待を裏切るようなことがあってはいけないと思い二三の方に諒解を求めた。またどんな最悪の事態が生じても私たちの同僚の諸

先生方は私の行動を信じ、最後までバックアップして下さるものと確信していたし、ある方から「あなたが芦屋の一市民としての立場から、芦屋市民のためにと思って行動され、大学に迷惑をかけるようなことをなさねば、芦屋市当局からあなたの事についてどんな依頼を受けても取り合わないから安心されたい」といわれたこともあり、愈々自信を持って運動を続け所期の目的を達成する決意を新たにしました。

5. 大学教授の仮面をかむつたペテン師

私たちは、当市100年の大計からみた場合し尿処理場のような問題の施設は現在すっかり住宅やアパートが密集してしまっているばかりではなく、U市長の海面埋立計画によると、近々市街地の中央になると思われるところに設置すべきではない。本年着工と聞いている埋立地の最南端に設置してほしいが、埋立費用は300余億円という巨費が予想されるし、海浜の埋立は長い年月を要するであろう。そうすると急を要する処理場問題の解決方法にならないと思い妥協案を提示して事態の解決を計ろうと思い斡旋を市長派の有力市議にお願いしようと思って面会を申入れた。その場合私の妥協案が相手方に充分通ぜず後日禍根を残してはならないと思い私の構想を論文形式にまとめ、付函を添えて待参することにした。

私はある日3人の市会議員さんに面会し、次のように述べた。「私がお願いしたいことの内容はこの小論文を読んでいただけるとわかってもらえると思うが、かいつまんで申上げると次のようになる。私たち協議会所属のものは当市百年の大計から考えると、当市のし尿処理場は現計画を変更し、本年着工とかの埋立地の最南端に設置してほしいと切望している。しかし急を要する施設であり、埋立地の出来上る日まで待てないとも思われる。もしそうであるとする、最初着工されるであろう防潮堤外50メートルを起点（私は海浜の埋立が行われる場合当市も東神戸の場合と同様防潮堤と埋立地との間に50mの運河が建設されるものと考えていた。）とし南北の方向に設置してほしい。それも時間と費用の点で実行不可能となるならば、神戸の長田、魚崎の処理場方式にならい防潮堤沿いにその外側と東西の方向に設置してほしい。要するに方法は何れであっても現計画を変更して、防潮堤外に設置していただければ、協議会の皆さんを説得してみせるからこの点市長さんに是非お願いしてほしい」と嘆願した。

ところがその直後県の大阪湾西部開発学術調査報告が発表され、その記述が私たちの提案と寸分ちがわぬものであった。そのためであったかそれとも、私たちの悲願を若干汲んで下さったのかある時市議会でU市長さんは全施設の三分の

一に当る汚泥施設のみ埋立地に移すべく努力しようと言明された。私たちがたとえ一部でも埋立地に移すべく努力するU市長さんの言明があればそれだけでもこの運動は成功したとの感じをもったが、その市長言明に呼応するかの如く変な私に対するデマが飛び出してきたのには驚くばかりであった。「協議会の皆さんもあの市長声明で満足されたことでしょう。あなた方の代表が施設の一部でも埋立地に移してもらえば皆さんを説得してみせるといわれていたから」と。

私は一度たりとも施設の一部を埋立地に移してもらえれば満足であるなどといった覚えがなかった。どんな形式でもよい施設全部を埋立地に移していただければ皆さんを納得してみせると言っただけである。私の構想は3人の市議員さんあるいは全建設委員さんに手交した小論文や日刊新聞に折り込み全市に配布した「ふん尿処理場ふん争」に明白であると第二回目の陳情書冒頭で猛烈に反駁した。するとそれに呼応してか話し手は一人、きき手は三人、一人がああ言ったということより三人がこう聞いた方が正しい筈と私が手交した小論文の内容を無視した子供だましのようなデマが飛ぶに至った。私がさらに反駁すると市議員を侮辱するけしからん奴、二枚舌をつかうけしからん大学教授、さてはペテン師というひどい中傷罵倒までされた。

私は二三の市議員から非公式の席でどんなに罵倒を加えられようときほど気にとめなかった。ところが9月に入り、市長選挙が始まると、私たちの運動が四選をねらわれたU市長の当落に大きい関係をもたらすと考えられてか、U市長候補の応援市議員は街頭演説でマイクによって長時間ひどい中傷、罵倒された時は流石にたまらなくなった。大学教授の仮面をかむったペテン師だ、とんだ埋学博士だなど耳をおおいたくなる言葉には閉口し、選挙違反に問われても相手側のマイクをたたきこわしてやろうかとまで思った。

6. 恐いどたん場の同志買収の魔の手

昨年3月浜の夫人たちが中心になりし尿処理場問題でU市長市政批判に立ち上った時は市当局は浜の少数分子のヒステリックな運動とみてか歯牙にもかけなかった。ところが懸案の市民大会に成功したり40万円に近い資金集めに成功し、U市長市政批判の猛運動を展開し始めると、9月の市長選挙のこともあってか圧殺しようとしてきたその現われが代表の私に対するかずつの脅迫、中傷であったとみられる。どんなにしても私が引き下らぬジエスチャーをみせると協議会そのものを分裂させようとの運動になっただけではない。U市長後援会の幹部夫人の中から「協議会を必ず分裂させてみせる」と豪語する夫人が現われた。私たちはそん

な言葉を耳にした場合も、同志の鉄の団結を信じていた。協議会内部から裏切り者が出るなどということは夢想だにしなかった。

ところがこの運動が始って3カ月目、問題の市長選挙までに3.5カ月もあろうという時に早くこの運動を休止しないと市長選挙事前運動と誤解されるとい出す人達が出てきた。そればかりか私たちをツンボ棧敷において陳情運動休止ムードを造るべく奔走している人達が現われたことを知るに至った。またU市長夫妻と秘かに懇談したり、後援会に再入会した夫人が現われたことを知った。私は余りにも百鬼夜行的な事態がある機会を知ってびっくりした。地元住民大会での申し合せもあるし、この運動自体の性格から考えても陳情運動の早期休止だけは阻止せねばならぬと考えて百万手を尽したものの、一部の不純分子のために強引に押しきられてしまった。事ここに至っては協議会に留って処理場再検討案をひっさげ市当局と論争するのも無駄と思い協議会を脱会することに決意するとともに、3月以後物心ともに御援助下さった方に陰ながらお別れしようと思い、お別れの挨拶代りに3月以来の協議会の活動状況を日記風に克明に記録した「芦屋マダムとし尿処理場ふん争」一市民の皆さんに訴える一と題した100頁の小冊子100冊を自費出版し、無料配布しようとした。

その小冊子の内容はそのものの性質、執筆の動機からみて、たとえ事実即していたとはいえ、U市長さんの欺瞞政策を徹底的に攻撃したものであり、U市長側からは非難攻撃されるとしても味方の陣営からならたとへ後で知った方でも双手をあげて賛成してくれるものと思っていた。ところがいざ配布しようすると、U市長側に内通していたと思われる同志から強硬に書き直しを要求された。書き直し絶対反対の同志の意見に組して配布すると、書き直しを強要した同志は協議会脱会を宣し勝手気ままな脱会理由書を私たちにたたきつけてきた。そしてそれを悪用した地方新聞が私に対し選挙違反、名誉毀損罪で訴えられるぞと脅迫してかかってきた。脱会者の一人がその道の専門家の弁護士であったので油断もできず、最悪の場合は神大を辞さねばならん事もあるかと思ひ、万一に備えることにした。幸い私が知らぬうちに、私のことを案じて下さった篤志家が次々現われ裏面工作をして下さったためか告訴されずに終り、ホット一息つくことになった。

7. 某市議告訴のため警察に走る

小冊子の印刷配布は協議会にとっては危機一発のピンチであったが、雨降って地固まるのたとえの通り、これを契機に結果的に獅子心中の虫を追放することが出来たが、私は逆に協議会から脱会することが不可能になった。私たち残留者は

改めて一堂に会し、陣営を建てなおし、陳情活動再開の日に備えることにした。また、市長選挙直前のサンデー毎日が5頁に亘り写真入りの記事をまとめて私たちの応援に立ち上ってくれた。さらに市長選挙では私たちの抗争の相手であった旧前市長さんが落選され、私たちの悲願を公約の一つに取り入れて下さったW新市長が当選されるに至った。そのため3月以来私を苦しめ命も縮む思いをさせてきた中傷、罵倒、脅迫から漸く解放され、同志と共に大願成就の日も近いと喜び合うことができた。

ところが10月に入り、し尿処理場をテーマとしたNHKの放送で某市議さんと予期せぬ論争をせねばならなくなった。私たちは春以来K市議の言動には少なからぬ不満を覚えていたものの、NHKの放送ともなれば理不尽な発言もされないと楽観していた。ところが同氏の放送内容をきくと余りにも現実離れのひどいものであった。余りのことにあきれ長文の抗議書を手交した。その長文の一節に「事実にもそぐわぬ為にする理論で私たちの悲願に水をさされるような態度を今後も続けられるのであるなら、私たちはあなたをリコールせねばならなくなるやも知れん」というような文章があったことを理由にK議員は議員活動に圧迫を加えられたとか、脅迫されたとかいきまき、代表の私を告訴するとて警察に走られたとのニュースも伝ってきた。事態がこうなっては受けて立ち、法廷で黑白を争うも仕方がないと思うに至った。この場合も某氏が私の知らぬうちに警察に走り私のために色々と尽力して下さいたためかあるいは警察側がK氏の告訴を取りあげる価値がないとして却下したためか、再び事なきを得た。

私たち学者は、自分の専攻学問が少しでも世のため人々の生活のため役立つことを心がけて日々研究にいそしみ、学生の教養に当たってきている。従って為政者は学者の提出した理論が人々の生活をより幸福にするものであったら虚心に受け取り、行政面に反映するように努力していただくことを念願しているわけである。私は市当局のやり方が将来市民を不幸な目にあわすことになりやしないかと思って、新しい提案を出したのであったがたまたまそれが為政者意向に反したものであったために思わざる迫害を受ける結果になった。研究室でえた理論が正しいものであっても為政者の意向に反した場合その理論実践のむづかしさを身にしみて体得した次第である。

(1965. 1. 31)

(神戸大教授)